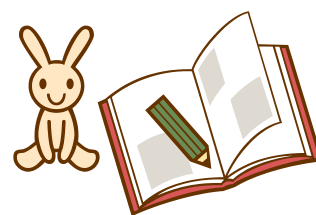


学校図書館活用研究

研究テーマ

子どもが自主的・自発的に取り組む読書活動の工夫



1 はじめに

「下野市学校教育計画」 2 「豊かな心」を育む教育の推進 (2) 読書活動の推進より

努力目標	努力点
① 学校図書館の活用を図る。	<p>ア 学校図書館教育主任等を中心に全教職員が協力して、児童生徒が、自主的に読書ができる環境の整備に努める。</p> <p>イ 調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の授業で計画的、継続的に学校図書館を利活用する。</p> <p>ウ 図書システム活用による貸出・返却作業や蔵書確認を、正確かつ効率的に行えるよう担当教員と図書支援員が連携する。</p> <p>エ 市の図書館との連携・協力を密にする。</p>
② 読書の習慣化を図る。	<p>ア 学校での一斉読書活動の時間等を定期的に日課に位置付ける。</p> <p>イ 教員や地域ボランティアなどの読み聞かせや、委員会活動の充実などにより、本に親しませ、読書の楽しさを体験させる。</p> <p>イ 図書の紹介やビブリオバトルなど子ども同士の活動を取り入れることで、本に親しみ、読書の楽しさを体験させる。</p> <p>ウ 家族で読んだ本について話し合ったり、好きな本を紹介し合ったりする「家読（うちどく）」を奨励する。</p>

学校図書館活用研究会では、平成28年度は市立図書館との連携、平成29、30年度は「読書記録」の作成と活用をテーマに研究に取り組んできた。今年度は、努力目標「②読書の習慣化を図る」の努力点として新たに設定された「イ 図書の紹介やビブリオバトルなど子ども同士の活動を取り入れることで、本に親しみ、読書の楽しさを体験させる。」を受け、「子どもが自主的・自発的に取り組む読書活動の工夫」について研究を進めることにした。

2 研究の内容

- (1) 国語科の授業を核とした読書活動の工夫
- (2) 児童生徒が主体的に取り組む委員会活動の工夫



3 実践例

実践① 国語科の授業を通して読書への興味・関心を高める（祇園小学校での実践）

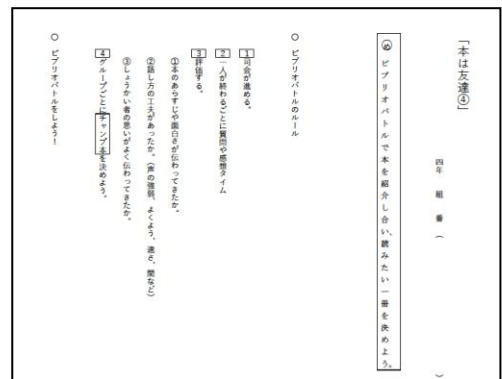
国語科の読書単元における言語活動を「ビブリオバトル」に設定した。ゲーム感覚で活動に取り組むことで、普段読書に親しむことが少ない児童や発表することがあまり好きではない児童も、楽しみながら本に向き合うことができるよう活動内容を工夫した。

(1) 実践内容

- ・ ビブリオバトルの動画を視聴し、ビブリオバトルの目的や方法を知る。
- ・ 紹介する内容や伝えるための工夫を考える。
- ・ グループでビブリオバトルを行い、グループのチャンプ本を決める。
- ・ グループの代表でビブリオバトルを行い、クラスのチャンプ本を決める（児童の提案により追加された活動）。

(2) 自主的・自発的な活動につなげるための工夫

- ・ 実際のビブリオバトルの映像を視聴し、イメージをもたせることで、ゲーム感覚で楽しみながら活動に取り組めるようにする。
- ・ 本のよさが伝わるためには何を紹介すればよいか考えさせることで、心に残った箇所を読み返し、より読書が深まるようにする。
- ・ 紹介する情報を必要に応じて取捨選択することで、無理なく活動に取り組めるようにする。
- ・ 目的や相手意識をもたせることで、伝えるための工夫を考え、実践できるようにする。



授業で使用したワークシート

(3) 成果 (◎) と課題 (△)

- ◎ 自分の思いを伝えるために、本を読み返して内容を精選したり、伝える方法を工夫したりする中で、本への理解をより深めることができた。
- ◎ 質問したり、感想を述べたりする中で、友達が紹介した本を読みたいという意欲を喚起させることができた。

◎ 活動を通して、読書への興味・関心だけでなく、書く力、伝える力も伸ばすことができた。

△ 学年単位の実践ではなく、他の学年とのつながりを意識して実践できるように、校内の組織を活用して校内全体に広げていけるとよい。

△ 発表のための準備や練習の時間の確保や、他教科等とのつながりなどを意識して取り組めるよう年間指導計画へ位置付けるなど、計画的に進めていく必要がある。



ビブリオバトルの様子

実践② 読書週間と関連付けた国語科の学習を通して、読書活動の充実を図る
(国分寺小学校での実践)

校内読書週間の実施時期と、読書に関連する単元の学習時期が近いことから、単元における言語活動を「本の魅力が伝わる紹介文を書くこと」に設定した。単元の学習のゴールを読書週間における「おすすめの本のしおり作り」につなげることで、児童が目的をもって読書に取り組めるよう単元計画を工夫した。

(1) 実践内容

ア 国語科での実践「広がる、つながる、わたしたちの読書」

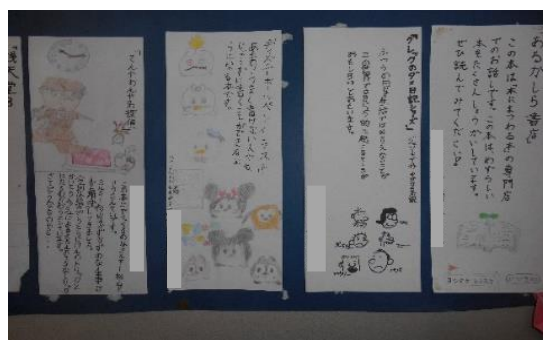
- ・ 本をすすめるための方法（ポスター、ポップ、帯、特設コーナー、ブックトーク等）を知る。
- ・ 相手が「読んでみたい」と思うような文章の工夫（引用、キャッチコピー等）を学習する。
- ・ 教材文を読み、方法や表現などを工夫して紹介文を書く。
- ・ クラスの友達と紹介文を読み合う。

イ 読書週間における実践「おすすめの本のしおり」作り

- ・ 短い表現で本の魅力を伝える工夫を考え、しおりを作成する。
- ・ 作成したしおりを教室や図書室に掲示し、互いの紹介文を読み合う。

(2) 自主的・自発的な活動につなげるための工夫

- ・ 「友達にすすめるために紹介文を書く」という言語活動を設定することで、相手意識や目的をもって読書に取り組めるようにする。
- ・ 心に残った場面や紹介したい箇所を何度も読み返すことで、より深まった読書ができるようになる。
- ・ 本を紹介する手段を、紹介文からしおりやポップなど多様な方法に広げることで、読書への関心を高められるようにする。



児童が作成したしおり

(3) 成果 (◎) と課題 (△)

- ◎ 国語の学習内容を並行読書を通して深めることができた。
- ◎ 本の紹介文を書くことで、より深く本と向き合うことができた。
- ◎ しおりやポップなどを用いることで、本を読むことや文章を書くことに抵抗がある児童も取り組みやすくなった。また、読む側も短時間で読めることで、より多くの本に興味をもつことができた。
- △ どの学年においても、読書単元の学習と関連させた図書室利用ができるよう、年間指導計画への位置付けができるとよい。
- △ 読書週間中は進んで読書に親しむ児童が多く見られたが、読書の習慣化に繋げるためには、更に手立てや工夫が必要である。

実践③ 読書週間の活動を通して、児童が進んで本に親しむきっかけを作る（古山小学校での実践）

古山小学校では、6月末から7月上旬にかけての2週間を読書週間に設定している。これまで教師やボランティアによる読み聞かせなどを実施してきたが、より多くの児童が図書室を訪れるきっかけとなるよう、委員会の児童が中心となって行う活動を工夫した。

(1) 実践内容

ア 図書委員会の児童が中心となって行う活動

図書委員による読み聞かせ

① 読み聞かせ

- ・ 朝の読み聞かせ（図書委員、外部ボランティア、教職員）
- ・ 昼休みの読み聞かせ（図書委員）



② 読書週間スタンプカード（低学年）
ビンゴカード（3年生以上）の作成

③ おすすめの本を紹介するお昼の放送（常時活動）

- ・ おすすめの本のポップ作り（常時活動）

親子読書と読書の記録の掲示

イ その他の活動

- ① 「読書の記録～視写とおすすめの文～」の募集と表彰（3年生以上）
- ② 親子読書の募集と表彰（低学年）
- ③ 朝の10分間読書



(2) 自主的・自発的な活動につなげるための工夫

- ・ 委員会の児童が主体的に取り組む活動を意図的に設けることで、他の児童が読書へ関心をもつきっかけを作る。
- ・ 委員会の児童による大型絵本や紙芝居の読み聞かせや、本の紹介を通して、普段読書の機会が少ない児童が抵抗なく本に興味をもてるようにする。
- ・ スタンプカードやビンゴカードを活用することで、より多くの本や幅広い分野の本に親しめるようにする。
- ・ 図書委員が「おすすめの本」を紹介して図書室のカウンターに配架したり、ポップを作成したりすることで、選書に迷う児童が本を選びやすい環境を作る。

読書週間ビンゴカード

読書週間ビンゴカード		
自分の好きな本	日本の物語	5・6・7・8歳の本
題名 []	題名 []	題名 []
分類記号 []	分類記号 []	分類記号 []
2歳 伝記・歴史の本	家で15分以上読書	朝の読書
題名 []	題名 []	題名 []
分類記号 []	分類番号 []	分類番号 []
	おうちの人のサイン	先生のサイン
題名 []	友達がおすすめる本	日本の物語
分類記号 []	お気に入りの本	題名 []
		分類記号 []

(3) 成果 (◎) と課題 (△)

- ◎ 児童による読み聞かせは、自分から読書することが少ない児童も楽しんで参加することができ、読んだことがない本に興味をもつきっかけができた。
- ◎ カードを活用したことで、たくさん本を読んだり、幅広い分類の本を読んだりすることができた。
- ◎ お昼の放送の「おすすめの本」の紹介は、放送を聞いた児童がすぐに借りに来るなど、図書室へ来室するきっかけになった。
- ◎ 図書委員が作成したポップは、選書に迷っている児童の手助けになっただけでなく、図書委員の活動意欲も高めることができた。
- △ 進んで図書室に足を運ぶ児童とそうでない児童との二極化が見られる。
- △ 読む本の内容に偏りがあるので、幅広く読書に親しむための工夫が必要である。
- △ 学校では読書に親しんでいる児童が多いが、学校評価保護者アンケートでは、家庭では進んで読書をする姿があまり見られないという回答が見られた。家庭でも読書が習慣化できるよ



図書委員が作成したポップ

う、引き続き家庭への啓発が必要である。

実践④ 委員会による啓発を通して「読書の習慣化」を図る（石橋中学校での実践）

学校目標を基に、図書委員会を中心とした学校図書館教育の活性化を図るため、まず生徒の現状と実態を調査した。図書委員会では、現状をよりよくするための話し合いを行い、「読書の習慣化」に向けた啓発を行った。

(1) 実践内容

ア 図書利用アンケートの実施（10月実施）

生徒の図書利用についての実態を把握するために、全校生徒にアンケート調査を行った。

《アンケートの項目》

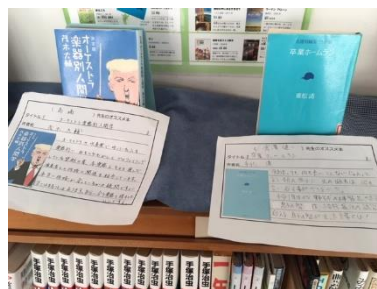
- ① 今年度に入り、どのくらいの頻度で図書室を利用しているか。（授業を含めない）
- ② ①の質問で「1回もない」を選んだ人の理由は何か。
- ③ 好きな本のジャンルは何か。

《アンケートから分かったこと》

- ①より
「1回もない」と回答した生徒が半数を上回った。次に多い回答は「月1回以上」であった。
- ②より
「利用したくても、利用する時間がない」ため、図書室を利用しない生徒が多い。
- ③より
「ライトノーベル」、「文庫」、「映画の原作」のジャンルを好んで読む生徒が多い。

イ 図書委員会の実践

- ① 読書 week（毎月第1週）での呼び掛け
- ② 図書返却ボックスの設置・管理
- ③ リクエストカードの作成
- ④ 図書委員や職員のおすすめの本の紹介
- ⑤ 図書の利用や読書の習慣化に向けた話し合い



おすすめの本の展示

(2) 自主的・自発的な活動につなげるための工夫

- ・ 現状を把握し、その改善方法を図書委員会で話し合うことで、図書委員が問題意識をもって活動に取り組めるようにする。
- ・ リクエストカードによる図書購入や、図書だよりや放送でおすすめの本を紹介することで、生徒の読書への関心を高め、図書室利用を促す。

(3) 成果（◎）と課題（△）

- ◎ アンケートから生徒の図書室利用についての現状の把握や図書利用における課題の共有ができたことで、図書委員の生徒が自主的・意欲的に改善策について話し合うことができた。
- ◎ 図書委員や職員のおすすめの本の紹介や、図書だよりでの啓発により、生徒の読書意欲を高め、図書室利用を促すことができた。
- ◎ 「読書 week」での呼び掛けにより、図書室や学級文庫を利用する機会が増えた。



新着本の帯の掲示

- △ アンケートは1回の実施だったため、現状把握にとどまった。前期と後期で2回実施できると生徒の変容を見ることができる。

- △ 委員会の取組を読書の習慣化につなげられるよう活動の時間を確保し、学校全体で読書習慣の推進に取り組む必要がある。

実践⑤ 図書支援員や市立図書館との連携を図り、活動の充実を図る（国分寺中学校での実践）

生徒の読書への関心を高めるため、生徒の意見を生かした委員会活動の運営や、図書支援員や市立図書館との連携を通して委員会活動の活性化を図った。

(1) 実践内容

ア 常時活動の工夫

- ・ おすすめの本のポップ作り（図書支援員との連携）

イ 生徒の提案した活動の実施

- ・ 読み聞かせの実施

(2) 自主的・自発的な活動につなげるための工夫

- ・ 生徒の思いを生かしたポップ作りを通して、生徒への読書への関心を高める。
- ・ 市立図書館職員による読み聞かせの事前指導を通して、図書委員の活動意欲を高め、学校全体での読書活動の充実につなげる。



生徒が作成したポップ

(3) 成果 (◎) と課題 (△)

◎ 図書委員が作成したポップは、他の生徒が本を選ぶ際の参考になった。前年度以前に作成したポップを残しておくことで、他の生徒に本を読んでもらえるように工夫を凝らすなど、創作意欲を高めることができた。



読み聞かせの事前指導

◎ 生徒が提案した活動を実施に移したことで、図書委員の活動意欲が高まり、委員会活動の活性化につながった。

◎ 市立図書館職員による事前指導により、聞き手を意識して読み聞かせを行おうとする気持ちが高まった。小学生への読み聞かせの実施についても考えていきたい。

△ おすすめの本については、生徒が選ぶためジャンルに偏りが生じやすい。

△ 読み聞かせの練習や実施する時間の確保が難しい。

4 おわりに

今年度は、図書の紹介やビブリオバトルなど子ども同士の活動を工夫することで、児童生徒が本に親しみ、読書の楽しさが体験できるよう国語の授業や委員会活動の時間を中心に研究を進めてきた。その結果、読書への関心が高まり、児童生徒が本を読む機会が増えてきた。また、活動を通して、表現力や読解力が伸びてきた児童生徒も見られた。一方で、継続して読書活動に取り組むことや活動の時間を確保することの難しさもある。

今後は、各教科等の授業で計画的・継続的に学校図書館を利活用できるよう、調べ学習や新聞を活用した学習についても研究を進めていきたい。

